

ゆうげ
夕餉の講話 2018

本学教員が研究者として、generalistとしての啓蒙的解説よりも、その分野のspecialistとして、その研究の専門分野からテーマを選び、しかし一般の受講者にもわかりやすく、その分野の最先端の研究成果を披露します。広く浅くよりも、狭くも深い内容を、研究者としての矜持を持って、わかりやすく講話します。学問研究の核心に触れる知的快をご堪能下さい。

※各回とも2日前までに裏面の申込用紙を記入のうえFAXで送信してください。

連絡先: 〒157-8565 世田谷区北烏山8-19-1

日本女子体育大学 学事課 電話03-3300-2482

大学ホームページURL <http://www.jwcpe.ac.jp/>

受講料 無料 時間 16:30~18:00 会場 E101教室(本館1F)

- 10/29(月) 舞踊言語の特性 教授:松澤 慶信
舞踊作品を、作者から観客に発信されるコミュニケーションのツールとしての言語と考えた場合に、言葉でも絵画でも音楽でもない「身体」を媒介にする運動態の言語とは何かを考え、その特徴を挙げていき、コンテンポラリーダンスの二重性にも言及します。
- 11/5(月) トウルネンとスポーツの論争 - 専門性か多面性か? 准教授:都筑 真
特定の種目において最高成績を追求する「専門性」と、様々な種目をバランス良く行い、各種目において平均的成績を追求する「多面性」は共存できるものなのか。この点を、19世紀末のドイツで生じたトウルネンとスポーツの論争から考えていきます。
- 11/12(月) 重力 - 身体から宇宙まで - 教授:牧 琢弥
科学的に考える方法を確認したのはニュートンです。物に力が働くという視点でスポーツや舞踊を見るとき、「重力」が大きな役割をする事を見ていきます。他方で天体の間に重力が働くという視点と観測から、導かれる驚くべき事実を見てみましょう。
- 11/26(月) 跳ぶ、走ること 教授:石塚 浩
走ったり、跳んだりすることは、人類の誕生以来、必要な運動形態として残されている。生きていくうえで必要だったものが、スポーツへ利用され、究極は五輪・世界選手権の優勝者の身体に宿されている。これを回顧し、新たな発想に繋がられれば……。
- 12/3(月) 村の若者はどう生きたか 准教授:瀬川 大
若者はいつの時代もあります。しかし若者が何を考え、どんな行動をとるかは時代によって大きく異なります。今から100年以上前、明治時代の農村で暮らしていた若者の理想や日常、行動などの一端を、本人たちが記した記録から垣間見ていきます。
- 12/14(金) 結核の近代史 - 人は肺病とどう向き合ったのか 教授:青木 純一
かつて結核は国民病と呼ばれ、街中にはたくさんの患者が溢れていました。特效薬のない時代にあって、人々は知恵を出し合って結核の撲滅に取り組みます。その様子は人々と結核の壮絶な闘いの歴史であるともいえます。その一端を紹介したいと思います。

「夕餉の講話 2018」申込用紙

FAX送信先:03-3300-0174

氏 名		生 年 月 日	
		年 月 日(歳)	
住 所		電 話	
〒		- -	
記入欄	開講日	タイトル	講 師
	10/29(月)	舞踊言語の特性	松澤 慶信
	11/ 5(月)	トウルネンとスポーツの論争 - 専門性か多面性か？	都筑 真
	11/12(月)	重力 - 身体から宇宙まで -	牧 琢弥
	11/26(月)	跳ぶ、走ること	石塚 浩
	12/ 3(月)	村の若者はどう生きたか	瀬川 大
	12/14(金)	結核の近代史 - 人は肺病とどう向き合ったのか	青木 純一



受講したいタイトルに○を記入してください。